



保護者のみなさんへ

この度は、オンライン・テイク・アクション・キャンプにお申込みいただきありがとうございます。
本プログラムが、参加する子どもたちにとって「世界を変える行動を起こしていくきっかけ」となるよう日々準備を重ねております。参加する子どもたちにお会いできることをスタッフ一同楽しみにしております！

プログラムにご参加いただくにあたって、保護者の皆さんにお伝えしたいことがございますので、下記をご確認いただきますようお願いいたします。ご不明点や質問などありましたらお気軽にお問合せください。



プログラム中の保護者の皆さんのサポートについて

- ①プログラムは基本的には申し込みをされた参加者のみでご参加いただきますようお願いいたします。
- ②参加者の近くで保護者がプログラム内容を聞いている環境ですと、参加者が正直な自分の意見を話しにくい場合もある可能性がありますので、可能でしたら保護者はプログラム中には参加者から離れた空間にてお見守りいただきますようお願いいたします。ただし、プログラムを受ける家や場所の状況によってはそれが難しいという場合もあるかと思いますので、こちらは強制ではございません。また本人がそのような状況を希望しない場合は除きます。
- ③システムのトラブルが発生した場合、参加者本人で対処できない場合は保護者の皆さんにサポートをお願いできればと思います。場合によっては、お電話でご連絡させていただく可能性もありますので、その点ご了承ください。
- ④参加者の皆さんに「活動の約束（チャイルド・プロテクション）」をお渡ししています。こちらの内容について保護者の皆様もご確認いただきますようお願いいたします。



プログラム後の保護者の皆さんのサポートについて

- ①次ページの姿勢を参考に、参加者の子どもたちが社会の課題に対してアクションを起こすためのサポートを一緒にしていただければ幸いです。
- ②テイク・アクション・キャンプ参加者向けに、歴代の参加メンバーの先輩と交流し、改めて社会問題とアクションに向き合うセミナー＆同窓会イベントを年に1度、開催しています。詳細については、キャンプ終了後、参加者の皆様へご連絡いたします。



団体説明、及び、子どもと関わる姿勢について

フリー・ザ・チルドレンはカナダの当時12歳のクレイグ少年が児童労働の新聞記事をきっかけに1995年にクラスメイトと設立し、日本では1999年に団体を設立しました。現在は、途上国の貧困地域の自立支援と並行して、「世界は変えられる」と子どもがそう信じられる社会を目指し、「子どもや若者は助けられるだけの存在ではなく、自身が変化を起こす担い手である」という理念のもと、日本の子どもや若者が国内外の問題に取り組み、変化を起こす活動家チェンジメーカーになれるようサポートしています。

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンは、2つのfreeをミッションに掲げています。

- ①国内外の貧困や差別から子どもをFreeに（解放）する。
- ②「子どもには世界を変えられない」という考えから子どもをFreeに（解放）する。

スタッフやファシリテーターは上記の理念のもと、右ページにある「子どもたちと関わる姿勢」を大切にしながら子どもたちと接しています。プログラム中は保護者の皆さんにも同様の姿勢でサポートいただければ幸いです。

子どもたちと関わる姿勢

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンでは子ども、おとな共に理想の姿は「自分の望む道を、自分で切り拓いて開いてゆけるようになる」ことが理想の姿だと考えています。そのため、スタッフが子どもに接する際のスタッフの基本的な姿勢は、「教える」という上からの立場ではなく、「子どもから意見を引き出し、見守り、サポートする」という形が大切だと考えています。それは子どもが自分自身でできることを必要以上に介入することは控え、「何かをやってあげる」のではなく、「対等な立場として子どもにアイデアを提案し、それをどうするかは子ども自身が決める」という姿勢です。

※ただし、法律に触れることや、命にかかわることに関しては、必ず注意が必要です。

つつい手を出したくなったり、「おとなとして」アドバイスをしたくなったりしますが、子どもが「自分で考え、自分で実行できるようになる」ためには、子どもたち自身が「決断」、「勇気をもって進む」、そして時には「失敗」を経験しなければなりません。おとながすぐに「答え」を教えてしまつては、子どもは「失敗」から学ぶことを経験できず、いつまで経っても失敗だけを恐れ、おとなに頼ってしまい、自分で何かを考える力、達成する力がつきません。逆に、これらの経験を経た子どもは、自立した人間へと成長していくと、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンでは考えています。

♥ スタッフ・ファシリテーターへ伝えている具体的な子どものサポート方法

※保護者とお子さんとの関係では必ずしも当てはまらないものもあるかもしれませんが、参考までにご紹介します。

1. 「聞く」

【子どもが話したがっている場合】

全てを話し終えるまで、きちんと話を聞きましょう。話を聞いている間は、「そうなんだ」、「○○なんだね」、「そっか、辛かったね」と声をかけてあげて、ありのままに受け入れましょう。

あなたが「違うな」と思っても、子どもが「そうだ!」と思っていれば、それは子どもが出した答えです。否定は避けましょう。子どもが話している最中に「君は間違っている。こうあるべきだ」とおとなの考えを押し付けると、今後あなたに何も話さなくなるでしょう。かといって、あなたの考えをわざわざ子どもに合わせるのも違います。「そうなんだね。君はそう考えるんだね。でも私はこう思っているよ」と考えを伝えるのもいいでしょう。

【子どもが自分から話さない場合】

できるだけ自分から話したすのを待ちましょう。ただ、「話したいけど、言い出しづらい」様子であれば、「何か気になっている事がある?」と声をかけてみます。それでも何も話さない場合は「話したくなったら、いつでも言ってね」と伝えましょう。(もちろん、それでも一人で抱え込み、疲れてしまう子どもがいるかもしれません。そんな時は、状況に合わせた対応を。)

※子どもから聞いた話を勝手に他の人に話すのはNG! (子どもはおとなを信頼しなくなります)

2. 「支えになる」

これは、次のような姿勢・態度です。

話したいことがあったら、いつでも言っていよ。

失敗しても、絶対に見捨てないよ。

失敗してもいいよ。だめもとで、やっごらん。

なにか協力できることがあったら、言ってね。

あなたが成長するのを見守ってるよ。

あなたのこんなところを尊敬するよ。

あなたなら出来る! 信じているよ。

子どもの夢を聞き、色々な問題を議論し、いろんな話をするように心がけましょう。

子どもから話しづらそうだったら、まず、おとなから「おとなとしての外聞・恥を捨て、心を開いて」みましょう。

嘘やきれい事に子どもは敏感に察知します。正直に「夢」や「想い」を伝えてみます。

すると、子どもは自然に自分のことを話しやすくなります。